



『ビジョン2030』  
1st STEP  
(2022年3月期～2024年3月期)

中期経営計画

2023年5月29日

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証プライム 証券コード:6928



社是

心技一体

経営理念

経営の中心は人であり、  
健全なものづくりを通じて、  
豊かな社会の実現に貢献する。

## ビジョン2030

「金型の技術で未来を創る」

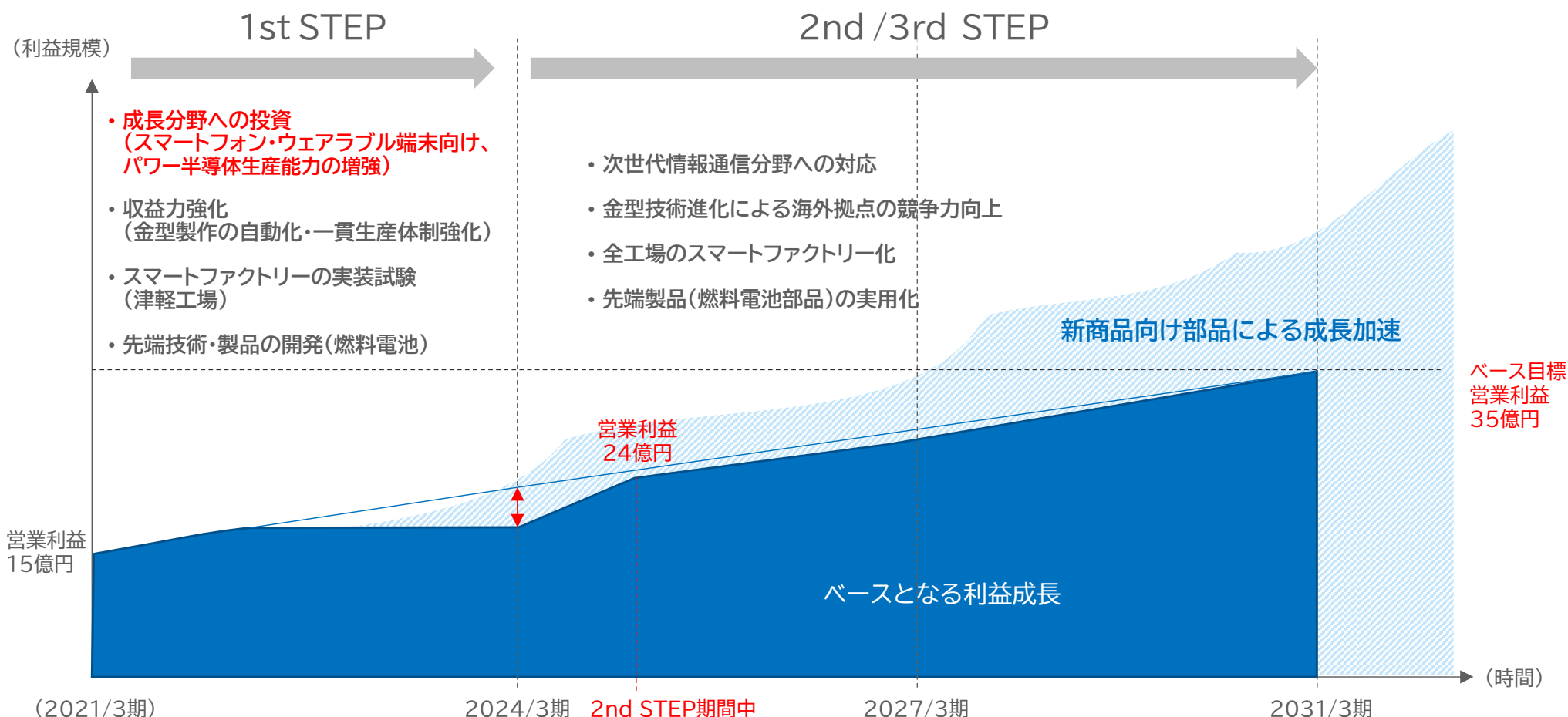
より小さく より速く 最先端の技術で  
暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

## ありたい姿

- 金型技術の進化で、最先端の市場に高品質な部品をスピーディに提供し続ける
- 失敗を恐れずチャレンジする職場環境づくりを通じてイノベーションを生み出す
- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する

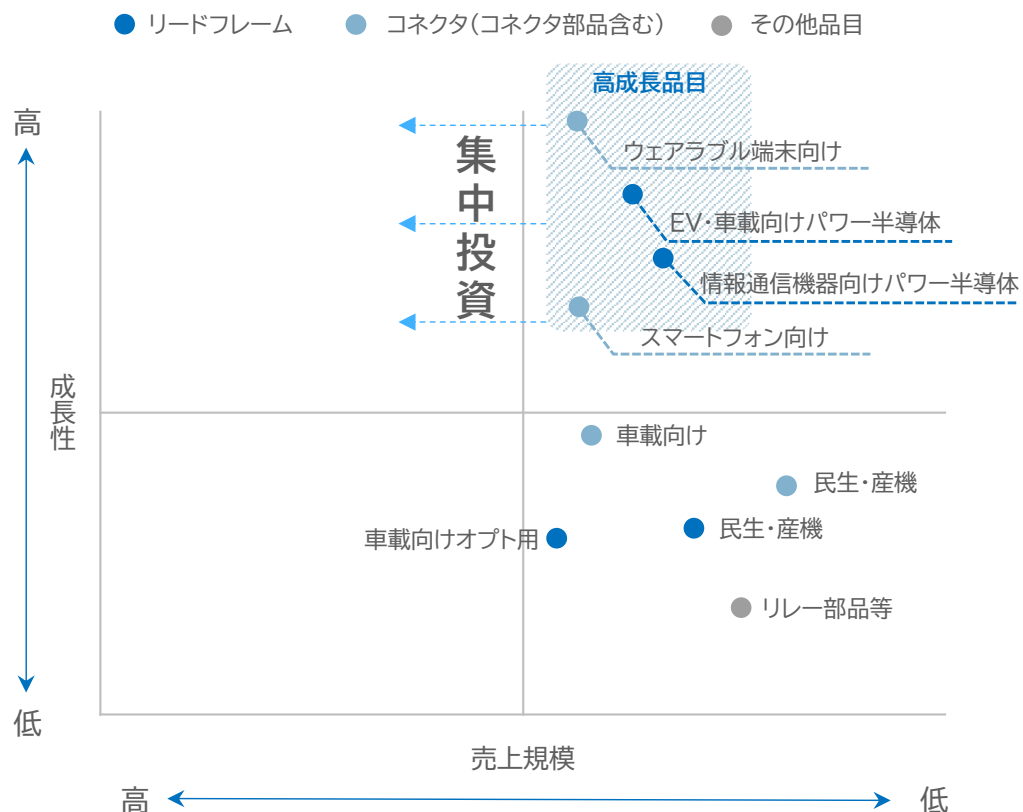
# 中長期成長目標

- ビジョン2030では、既存製品の需要拡大を見据えつつ、付加価値率の向上を軸とした各種施策で主力製品のマーケットの成長を上回る利益成長を図る
- 2nd STEPで計画していたパワー半導体生産能力の増強を**1st STEPに前倒して実施**
- 津軽工場と中国新工場でメッキ工程の内製化(一貫生産体制強化)を行い付加価値を取込み **23年1-3月から稼働開始**

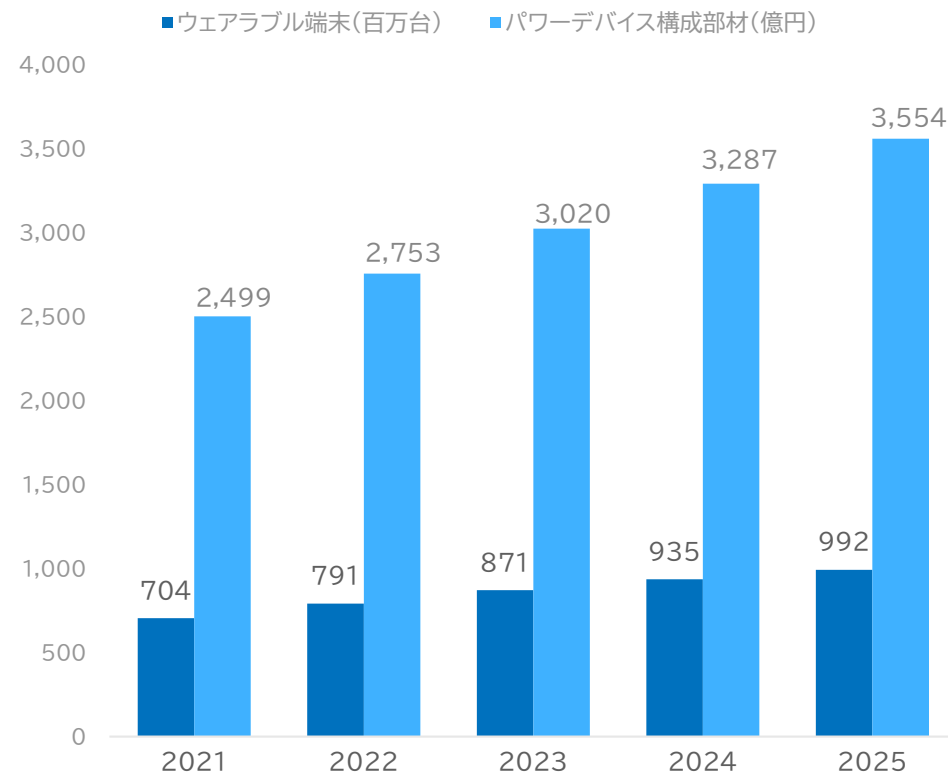


- ウェアラブル端末向けなどの狭ピッチコネクタやパワー半導体向けリードフレームなど、当社の超精密・大量生産技術が活かせる分野に集中投資

## 取扱い品目の成長性



## 成長分野の世界市場予測



ウェアラブル端末はスマートスピーカー・スマートウォッチ・ヘルスケアバンドの合算

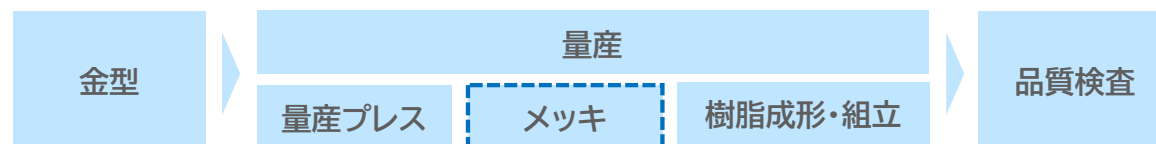
出所:富士キメラ総研「2022年 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査」  
「2022年版 次世代パワーデバイス&パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」

- 一貫生産体制強化のため、メッキ加工の内製化を進め、コネクタやリードフレームで付加価値向上を図る

津軽工場の新ライン



## 当社製品の主な製造工程



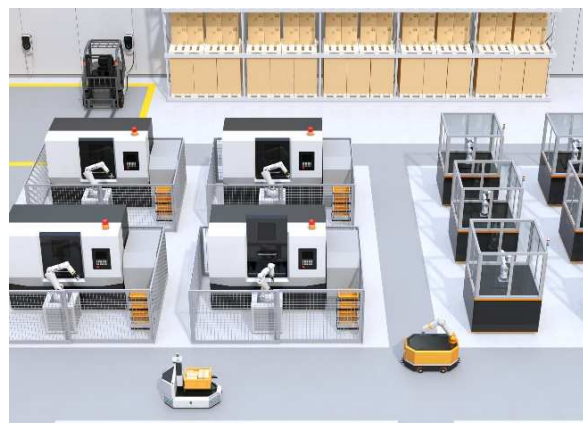
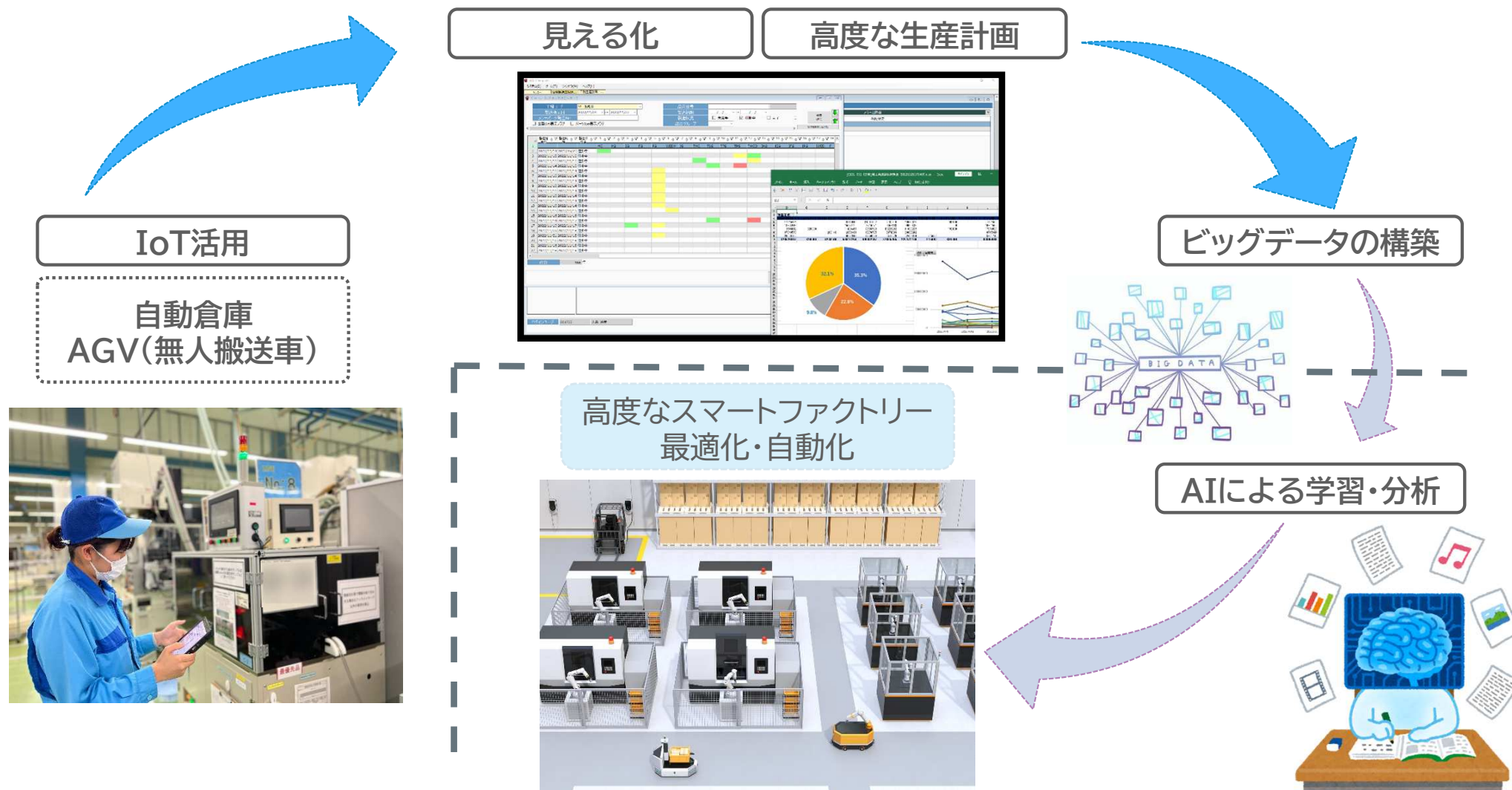
メッキの内製化でリードフレームとコネクタ製造の  
全工程をほぼ内製化  
さらなる付加価値の強化を目指す

- 津軽工場で1ライン、中国新工場で4ラインのメッキラインを新設。2023年1-3月期から稼働、量産に向け認定待ち
- 表面処理プロジェクト室を新設し、メッキ組織を強化

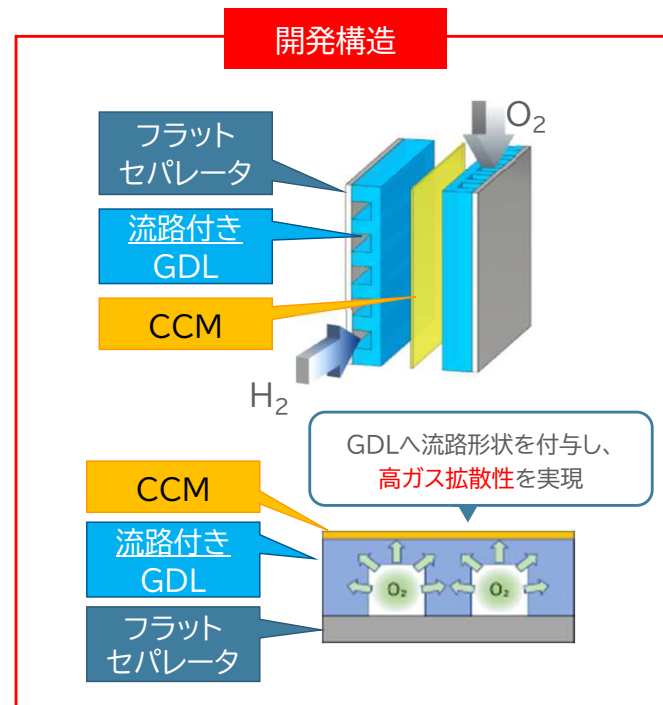
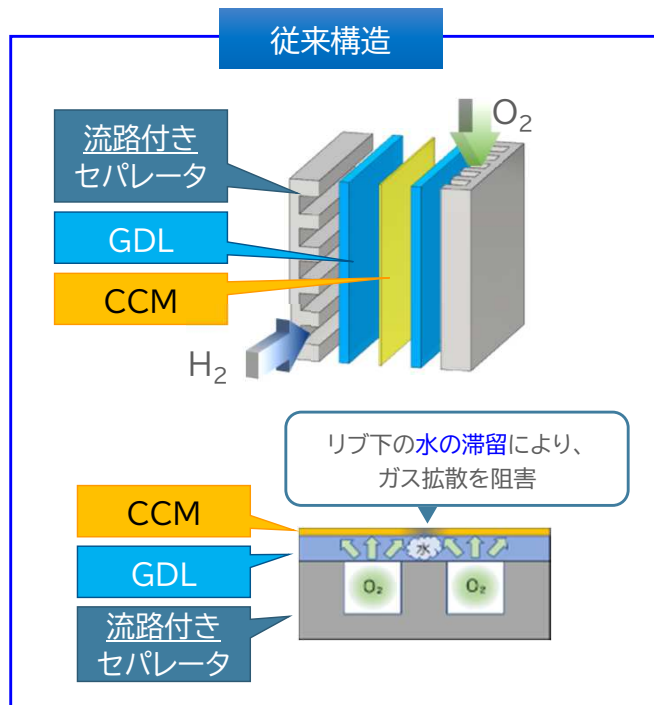
中国新工場



- ・ スマートファクトリー実現に向けて、2022年4月に新ERPシステムへの切り替えを実施
- ・ ビッグデータを構築し、AI活用した生産効率の向上や経営判断の迅速化につなげる



- 固体高分子形燃料電池(PEFC)向けガス拡散層(GDL)一体型金属セパレータを山梨大学と共同開発
- 新開発の流路付きGDL(GDLFC<sup>+</sup>)で大幅な高電流密度化を実現、当社技術により汎用樹脂にガス流路を成形
- 金属セパレータ、GDLを自社生産し、ガスケットと一体化し、コストを削減
- 2025年に燃料電池車向けのテスト開始、将来はFCV、ドローン、緊急電源、エネファーム等での実現を図る



## 2021年5月

日本で初めて制作された国産の燃料電池を電源とする電動アシスト自転車に当社製「ガス拡散層一体型セパレータ」が搭載

## 2021年7月

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)共通課題解決型産学官連携研究開発事業に採択

→採択期間は2025年3月まで更新

## 2022年3月

山梨大学及び大強度陽子加速器施設・J-PARCと連名で寄稿した論文が『Journal of Power Sources』(Elsevier社)にオープンアクセス版として掲載

## 2022年11月

山梨大学及びスズキ株式会社と連名で寄稿した論文\*がアメリカ電気化学会(ECS)にオープンアクセス版として掲載

\* 「Improvement of PEFC Performance Stability under High and Low Humidification Conditions by Use of a Gas Diffusion Layer with Interdigitated Gas Flow Channels (対向櫛歯型流路が形成されたガス拡散層が固体高分子型燃料電池セルの高加湿および低加湿条件下における出力安定性の向上に及ぼす影響)」  
<https://iopscience.iop.org/article/10.1149/1945-7111/ac9edf>

- ・メインターゲットはFCV－2030年FCV市場規模3兆9,011億円
- ・2023年3月時点において特許6件(国際:4件、国内:2件)出願中
- ・量産に向け2015年比約1/10コストへの削減を目指す

1st STEP(2021~2023)

2nd STEP(2024~2026)

3rd STEP(2027~2030)

FCV向け  
現行モデル

- ・顧客仕様、条件への適用開発
- ・量産ラインの稼働実験
- ・顧客開拓

- ・顧客仕様、条件への適用開発
- ・量産ライン準備
- ・顧客開拓

- ・量産開始
- ・2030年実用化へ

エネルギー  
その他

- ・顧客開拓
- ・顧客仕様、条件への適用開発
- ・量産ライン稼働→実用化へ

- ・FCV、ドローン、  
緊急電源、エネファーム等での実用化を図る

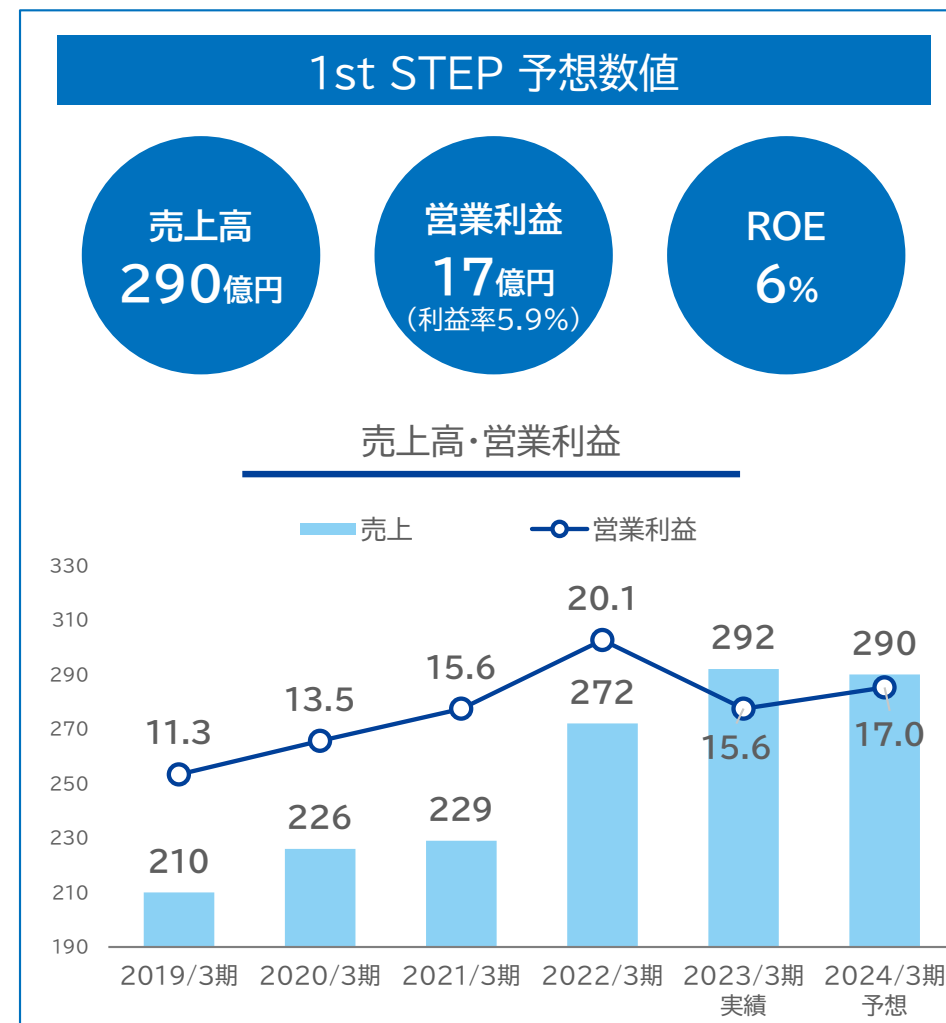
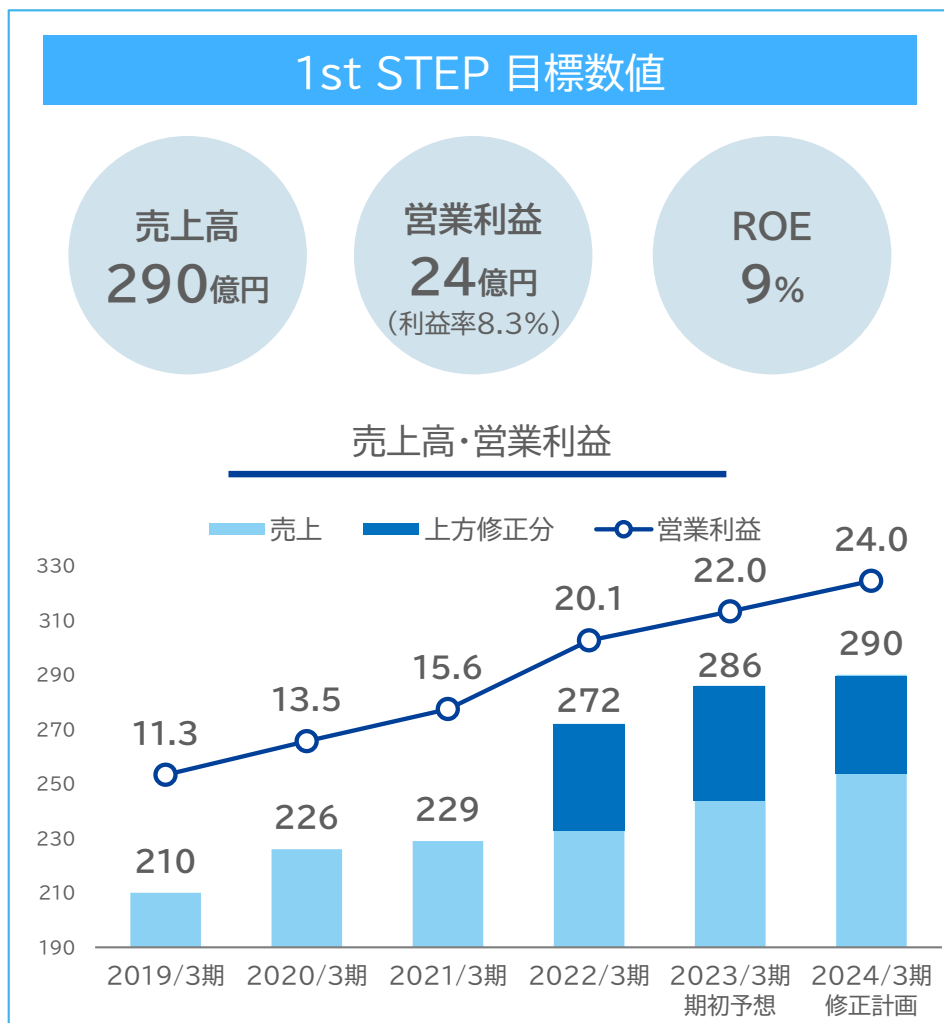
- ・改良型燃料電池の製造・研究開発・実用化による、水素社会の普及に貢献
- ・山梨県、山梨大学等と共に、産官学連携による燃料電池の研究開発の推進
- ・政府も本燃料電池の研究開発を支援、文科省に引き続きNEDOの研究開発事業に採択

(\*1)FCV市場規模 出所:富士経済・2021年版 燃料電池関連技術・市場の将来展望



# 1st STEP(2022年3月期～2024年3月期)

- 2022年3月期の営業利益は20億円となり中期経営計画の数値目標を達成し、24億円に修正  
しかし、スマートフォン向けの生産調整の他、エネルギーコスト等の費用増により2023年3月期は営業減益
- 中期経営計画1st STEPの数値目標は次期中期経営計画期間中での達成を目指す



- 2024年3月期は中長期的な成長に向けた仕込み期間と位置付け  
次期中期経営計画「2nd STEP」での「1st STEP」数値目標達成を目指す
- 先行指標の金型受注は前年同期比約2倍と急増しており、足下の生産調整後の需要回復に大きな期待

パワー半導体用リードフレーム	<ul style="list-style-type: none"><li>• 拡大が予測されているパワー半導体市場に向けクリップボンディング式リードフレームを拡販 ⇒ 中国に加え日本・フィリピンにおいても量産本格化</li></ul>
オプト用リードフレーム	<ul style="list-style-type: none"><li>• 車載/民生向け部品のLED用リードフレーム受注増に対する、増産体制確立</li></ul>
コネクタ用部品	<ul style="list-style-type: none"><li>• 5G/6Gに向け、高周波対応のマイクロコネクタによる更なるシェアアップ</li><li>• 中長期的な成長が見込まれるウェアラブル市場へのマイクロコネクタ拡販</li></ul>
メッキライン(内製化)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 中国メッキ新工場、津軽工場新メッキラインの量産効果による付加価値率の更なる向上</li></ul>

## 配当方針の変更

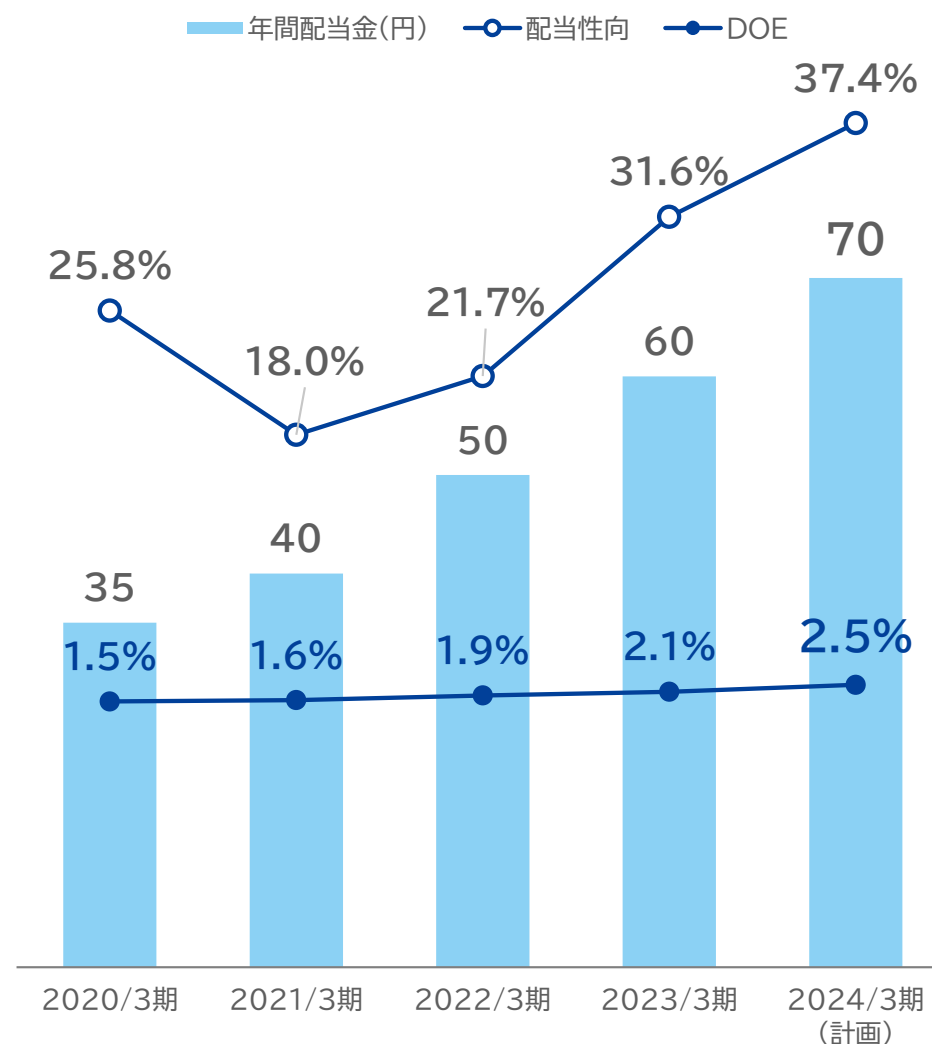
### 2024年3月期以降の配当方針

- DOE\*2.5%以上を配当の数値基準とする
- 次期中期経営計画「2nd STEP」でも、最適な自己資本水準や短期的な利益増加の反映方法を総合的に勘案しつつ、増配トレンドを継続する
- 2024年3月期は70円配当を予想 (DOE2.5%)

### 従来の配当方針

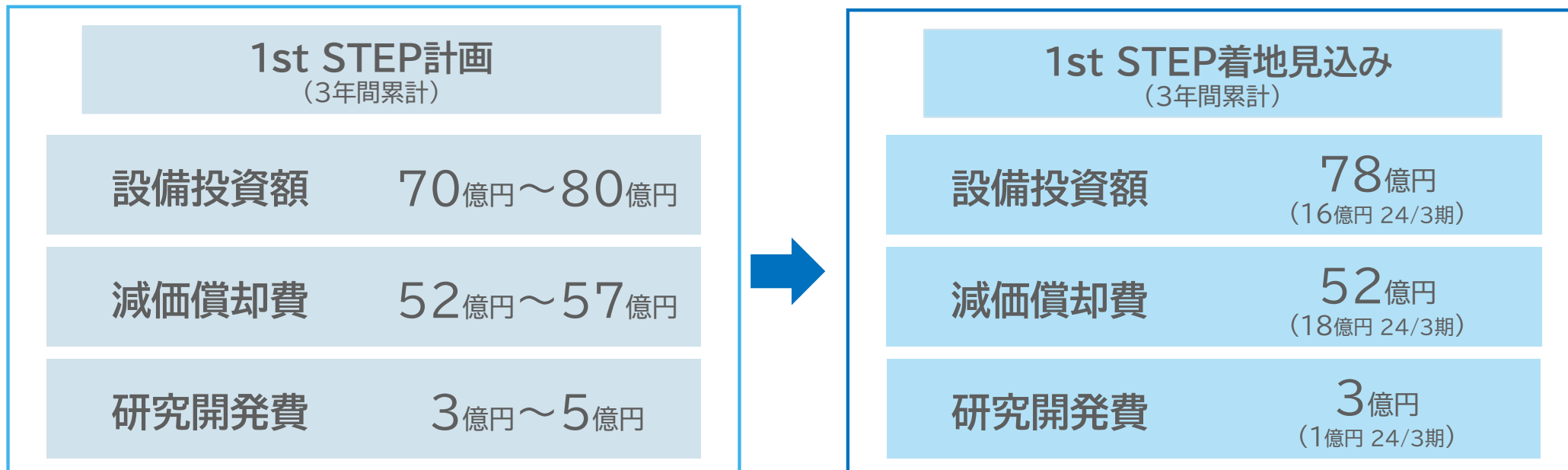
- 配当性向25%以上を目安に安定配当を継続

配当金・配当性向の推移



\* DOE(自己資本配当率) = 年間配当額 / 株主資本

- ・ 津軽工場増設に加えて、リードフレームの増産等により、中計見直し後の設備投資計画70億円～80億円に対し78億円を実施予定、3年間の減価償却費も当初の52～57億円に対し、52億円となる見込み
- ・ 研究開発は計画通り進捗、3年間累計で3億円を計画



## 主要設備投資

- ・ メッキ工程内製化投資 9～10億円
- ・ 津軽工場増築 31億円 (スマートフォン・ウェアラブル端末向けコネクタの増産)
- ・ パワー半導体用リードフレームの増産 10億円
- ・ スマートファクトリー化に向けたデジタル投資 5億円
- ・ 再エネ・省エネ投資 9億円

- SDGsへの取り組みとして以下を策定し、順調に進捗
- 2022年5月には中期環境計画を定め、2030年のGHG排出削減量を定めて、取り組みを強化
- 2023年5月には海外工場等も含む連結での中期環境計画を策定

重点分野	関連するSDGs	現在の取り組み	1st STEPでの対応策
脱炭素社会の実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 産官学連携による燃料電池部品開発</li> <li>• 太陽光パネルの設置</li> <li>• 照明の完全LED化推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 燃料電池部品の量産ライン稼働実験</li> <li>• 太陽光パネルの増設(津軽工場に設置)</li> <li>• 二酸化炭素排出量の測定と開示法の策定</li> </ul>
誰もが活躍できる社会の実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子育てのしやすい環境の整備(プラチナくるみん*)</li> <li>• 在宅勤務制度の実施</li> <li>• 健康優良企業「銀の認定」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 制度活用促進によるプラチナくるみんの継続</li> <li>• 多様性を重視した管理職育成</li> <li>• 障がい者・外国籍雇用体制の更なる拡充</li> <li>• 健康優良企業「銀の認定」更新</li> </ul>
みんなが幸せになれる社会の実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>• フードバンク活動</li> <li>• 学習支援活動への協賛</li> <li>• 地域活動、スポーツ団体への協賛</li> <li>• ボランティア休暇制度実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 採用活動や経済活動を通じた地域との共生</li> <li>• リサイクル活動強化</li> </ul>

\*プラチナくるみん：次世代育成支援対策促進法に基づき、仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業を認定

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。